

「リアル店舗」を通して 発揮できる役割と 挑戦すべき課題

ユニー・ファミリーマートグループでは、お客様や地域社会とつながる「リアル店舗」を起点に、その特徴を活かすことで、事業活動を通して社会が抱える課題やニーズに対応しています。これからも経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しながら、健全で持続的な成長を遂げていくために、「リアル店舗」こそが発揮できる役割を見極めながら挑戦し続けるとともに、組織のさらなる活性化や人財の多様化促進にも注力していきます。

- 地域社会との共生
- 地域活性化への貢献



地域に密着した
店舗ネットワーク

価値ある商品を
提供するための
仕組み

- サプライチェーンにおける商品の環境負荷の軽減



- 多様化するニーズに迅速に対応した商品開発



サステナビリティ上の最重要課題

当社グループを取り巻くステークホルダーや社会からの期待と、目指すべき企業像を実現するための経営戦略、そして企業理念をはじめとする指針を踏まえ、当社グループが優先的に取り組むべき最重要課題を特定しました。

ユニー・ファミリーマートグループの最重要課題

No.	最重要課題 (SDGsの目標)	重要課題
1	環境への配慮 	循環型社会の構築 低炭素社会への貢献 自然共生社会の実現に向けて ESD (持続可能な開発のための教育) の推進
2	社会・生活インフラとして、活力ある地域社会の発展への貢献 	地域社会の発展・活性化 災害対策・被災地支援 次世代の健全な育成 NGO/NPOとの協働と地域社会との共生
3	安全・安心な商品をお届けするサプライチェーンマネジメントの強化 	安全・安心な商品/サービスの提供 エシカル消費の普及・啓発 公正・透明な事業活動の推進
4	高度化・多様化する消費者ニーズへの対応 	高付加価値商品の提供 健康や福祉を向上させる商品/サービスの開発
5	ダイバーシティの推進 	多様な人財の受容と活躍の推進 ワーク・ライフ・バランスの充実と働きがいのある職場づくり

社会の変化に
対応した
店舗機能

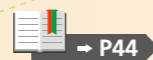
ハウスカードを
通じた
お客様との
つながり

国連グローバル・コンパクトへの参加

ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)は2017年9月に「国連グローバル・コンパクト」に署名し、登録されました。私たちは地球社会の課題・ニーズに対応するだけでなく、人権・労働・環境・腐敗防止における原則に沿った取り組みを加速させ、持続可能な社会の実現に寄与していきます。



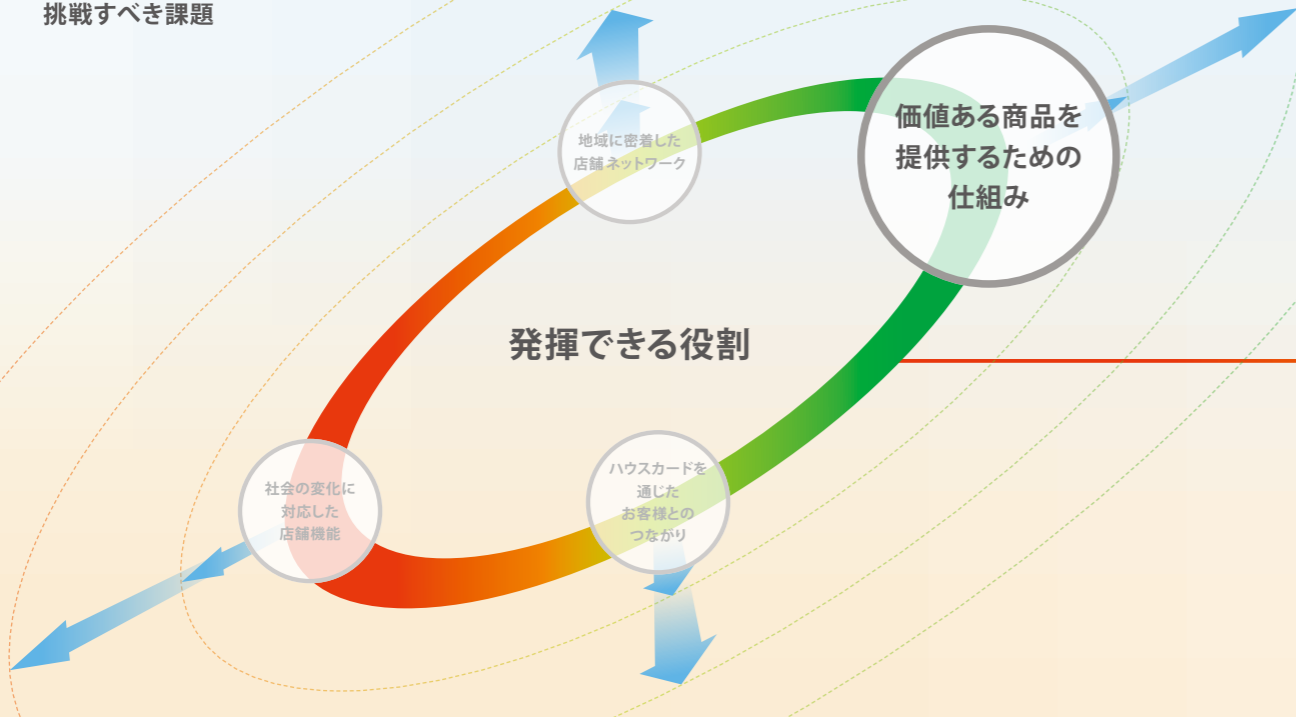
- 「新たな成長への攻めの強化」を支える人と組織づくり



最重要課題をもとに当社のサステナビリティ活動を整理した「サステナビリティ報告書」を発行しました。あわせてご参照ください。



「リアル店舗」を通して発揮できる役割と
挑戦すべき課題



サプライチェーンにおける商品の環境負荷の軽減

毎日の生活に欠かせない食品の取り扱いが多いユニー・ファミリーマートグループでは、商品の開発・製造・配送・販売の各段階で環境に与える負荷が最小限になるよう、様々な取り組みを行っています。ユニー（株）は持続可能な社会構築の取り組みを行う環境先進企業として、環境大臣から「エコ・ファースト」の認定を受けています。



食品リサイクルループの構築

循環型社会を実現させる取り組みとして、ユニー（株）では食品リサイクルループ事業を地域に密着しながら推進しています。生産者やリサイクル業者など、ループの各段階を担う様々な事業者とパートナーシップを形成し、店舗から生じた食品廃棄物の循環資源化に努めています。各店舗に廃棄物計量システムを導入し、廃棄物の発生抑制と分別の徹底を図ることで、ユニーの食品リサイクル率は2016年度63.6%と前年度比で2ポイント向上しています。

また、食品リサイクルループの構築は、各地の生産者と消費者を結ぶ地域循環・地産地消の推進にもつながります。各店舗から集められた食品残さは、リサイクル事業者によって飼料・堆肥に再生されますが、それらを使用した生産者を特定できる仕組みも導入しており、安全・安心な農畜産物を提供する地域循環農業の確立に貢献しています。



食品ロス削減への取り組み

（株）ファミリーマートでは、店舗での廃棄ロスを削減するため、発注システムの精度向上に取り組んでいます。店舗ごとに在庫数や売れ行き・天候・イベント等を考慮し、適正な発注数と品揃えを維持管理することで、特に消費期限が短い弁当やおむすび、サンドイッチなどの廃棄抑制につなげています。

2016年秋に導入を開始したオリジナル惣菜「お母さん食堂」では、食品を劣化させる酸素の

代わりに、二酸化炭素と窒素を注入して、酸化抑制効果を高める「ガス置換包装」を採用しました。食品包材の高機能化によって、惣菜の鮮度とおいしさを損ねず消費期限を3日間延長することが可能となり、食品ロスの削減にもつなげています。こうした新技術の導入はもとより、販売方法・包材の見直しを進めながら、これからも様々なアプローチにより廃棄ロスの削減に取り組んでいきます。

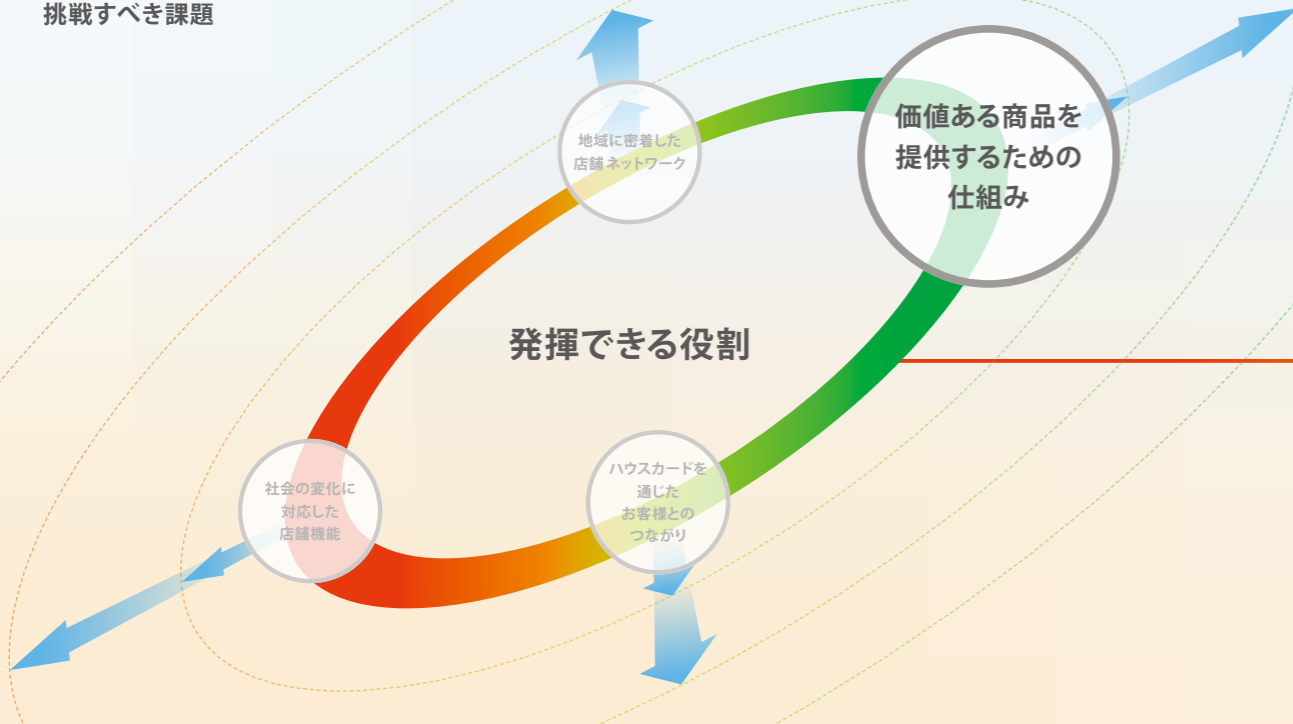


発注システムの精度向上は欠品撲滅・在庫適正化・発注時間削減だけでなく、食品残さの抑制にも寄与している



農林水産省の「食品ロスの削減に資する容器包装の高機能化事例集」に紹介された「お母さん食堂」

「リアル店舗」を通して発揮できる役割と
挑戦すべき課題



多様化するニーズに迅速に対応した商品開発

ビジネスの起点である「リアル店舗」で、日々お客様と接しながら事業活動を行っているユニーファミリーマートグループでは、多様化するニーズや地域社会が抱える課題を、商品やサービスにいち早く反映しています。

UFHD 安全・安心な商品の提供と説明責任

ユニーファミリーマートグループでは、お取引先の協力のもと、サプライチェーン全体を通じた商品の安全・安心を確保する体制や仕組みの強化を図っています。調達から消費までの様々なリスクを未然に抑止するため、すべてのお取引先を対象とした情報提供窓口「お取引先ヘルプライン」を外部の第三者機関に常設し、サプライチェーンにまつわる課題や問題点の早期発見と是正を行っています。また並行して、「お取引先アンケート」を年1回実施し、法令違反や不正行為等が行われていな

いことを確認しています。2017年度は「お取引先ヘルプライン」への問い合わせが1件（ファミリーマート1件、ユニー0件）ありました。また、「お取引先アンケート」では、ファミリーマートは約100社の送付に対して76社、ユニーは約900社の送付に対して340社から回答が寄せられました。お取引先からのご意見・ご要望等は、リスクマネジメント・コンプライアンス委員会に報告され、是正、改善を行っています。

FamilyMart 健康や福祉を向上させる商品／サービスの開発

現代社会の高齢化や健康志向の高まりを受け、消費者のニーズに応える様々な商品・サービスを提供しています。コンビニエンスストアで手軽に購入できながらも、体に優しく健康にも配慮した商品として、神戸市立医療センター中央市民病院の管理栄養士に監修していただき、カロリーや塩分、食材品目や栄養バランスに配慮した「管理栄養士監修商品」を展開しています。



管理栄養士監修「さばのみりん焼き弁当」

また、パーソナルトレーニングジムを運営するRIZAP(株)と共同開発したサラダ、デザート、カップ麺など、おいしさと低糖質にこだわった商品を販売し、お客様の健康増進をサポートしているほか、2018年2月には、フィットネス事業にも参入しました。24時間365日いつでも利用できるフィットネスジム「Fit & GO」として展開し、健康増進・健康メニューの提供など、高まる健康志向へ対応していきます。



「Fit & GO」店舗イメージ



生物多様性に配慮した商品の販売

自然を守ることが生き物を守ることになり、そうして作られた食物や製品を販売することで、お客様から選ばれ購入していただく。この生産から消費までの好循環を広げるため、生物多様性に配慮した商品の販売とともに、消費者啓発にも積極的に取り組んでいます。

トイレットペーパーや小学生向けの学習帳などの商品を開発、販売しています。お客様がFSC 認証マークの付いた商品を購入することが、間接的に森林保全や生物多様性の応援につながるという、買い物を通じた社会貢献の取り組みです。

国際的な森林認証制度を運営するFSC（森林管理協議会）により、持続可能な森林と認められた木材やそれらを使用した製品に与えられる「FSC 認証」。ユニーのプライベートブランド商品では、この認証を受けた

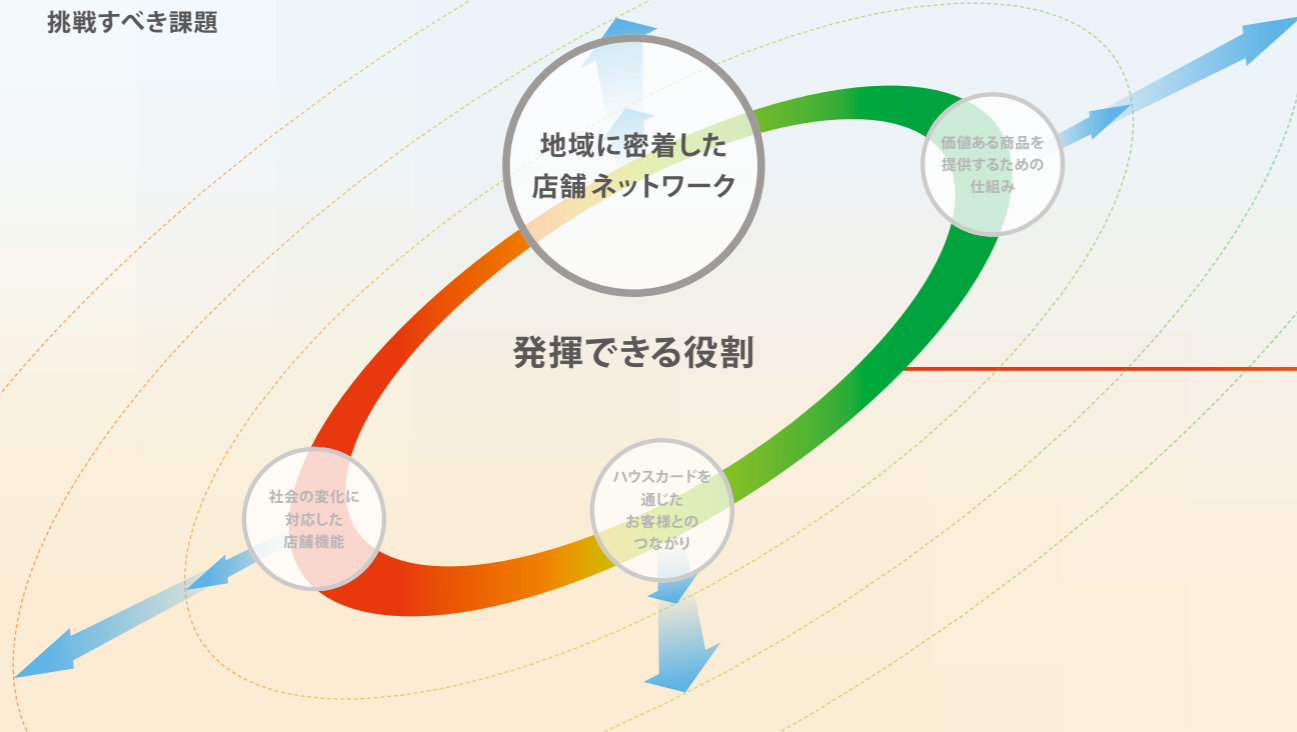


オーガニックコットンを使用した衣料品



FSC 認証の学習帳

「リアル店舗」を通して発揮できる役割と
挑戦すべき課題



地域社会との共生 地域活性化への貢献

国内に17,000店舗を超える規模のネットワークを構築しているユニー・ファミリーマートグループでは、それぞれの店舗が地域社会に根差し、地域行政の補完的な機能を担いながら、誰もが安心して生活できる地域づくりに貢献しています。

UFHD 災害時における社会・生活インフラとしての役割

(株)ファミリーマートとユニー(株)の両社は、災害対策基本法第2条第5号に基づき、内閣総理大臣から「指定公共機関」に指定されています。「指定公共機関」は、防災業務計画の策定をはじめ、災害予防・応急対策・復旧等において重要な役割を果たしています。

災害の発生時には、(株)ファミリーマートが日本全国に持つ物流網を活かして組織的な輸送力や緊

急支援物資の提供を行うほか、ユニー(株)の一部大型店舗では、非常時に炊き出しに利用できる「かまどベンチ」や、便器を収納して非常時にはトイレとして使用できるスツールなどを設置しており、地域住民の避難拠点としての役割を果たすことが可能です。また、災害からの復旧段階においても、いち早く通常営業を再開できるような体制を整えており、グループ一体となって大規模災害に備えています。



被災直後の店頭営業



かまどベンチ(ユニー)



災害時
災害用トイレ(ユニー)

UFHD 災害義援金(平成29年九州北部豪雨災害義援金)

2017年7月5日から6日にかけて発生した記録的な豪雨は、九州北部に甚大な被害をもたらしました。ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)では、被災地の1日も早い復旧と復興を支援するため、7月8日から全国の「ファミリーマート」「サークルK」「サンクス」及びユニー各店舗等の

店頭において義援金の受付を開始しました。

各店からは、約2週間の受付期間で募金総額41,383,739円が集まり、8月18日付で福岡県に33,106,991円、大分県に8,276,748円の寄託を行いました。

FamilyMart 自治体との連携(包括協定・災害協定・見守り協定の締結)

安全・安心なまちづくりを推進するため、各都道府県(一部を除く)や市区町村等と、それぞれ「包括協定」や「災害時物資支援協定」「帰宅困難者の支

援に関する協定」「(高齢者などの)見守り協定」などを締結し、緊急時の社会・生活インフラとしての役割を果たしています。



地域のNGO/NPOとのコラボレーション活動

ユニー(株)はNPOや地元企業のボランティアと協力して、お客様の家庭で不要になった衣料品を回収しています。回収した衣料品はNPO法人日本救援衣料センター、日本通運(株)を通じて、アジア・アフリカ・南米に送っています。

また、店舗ではお客様の家庭で不要になった

衣料品を回収し、自動車の内装材としてリサイクルしています。衣料品をお持ちいただいたお客様には割引券として使用できる「エコとくお買い物券」を差し上げており、1枚の使用で割引金額の1%をユニー(株)から被災地支援や緑化活動に寄付しています。

FamilyMart 地域の集いの場

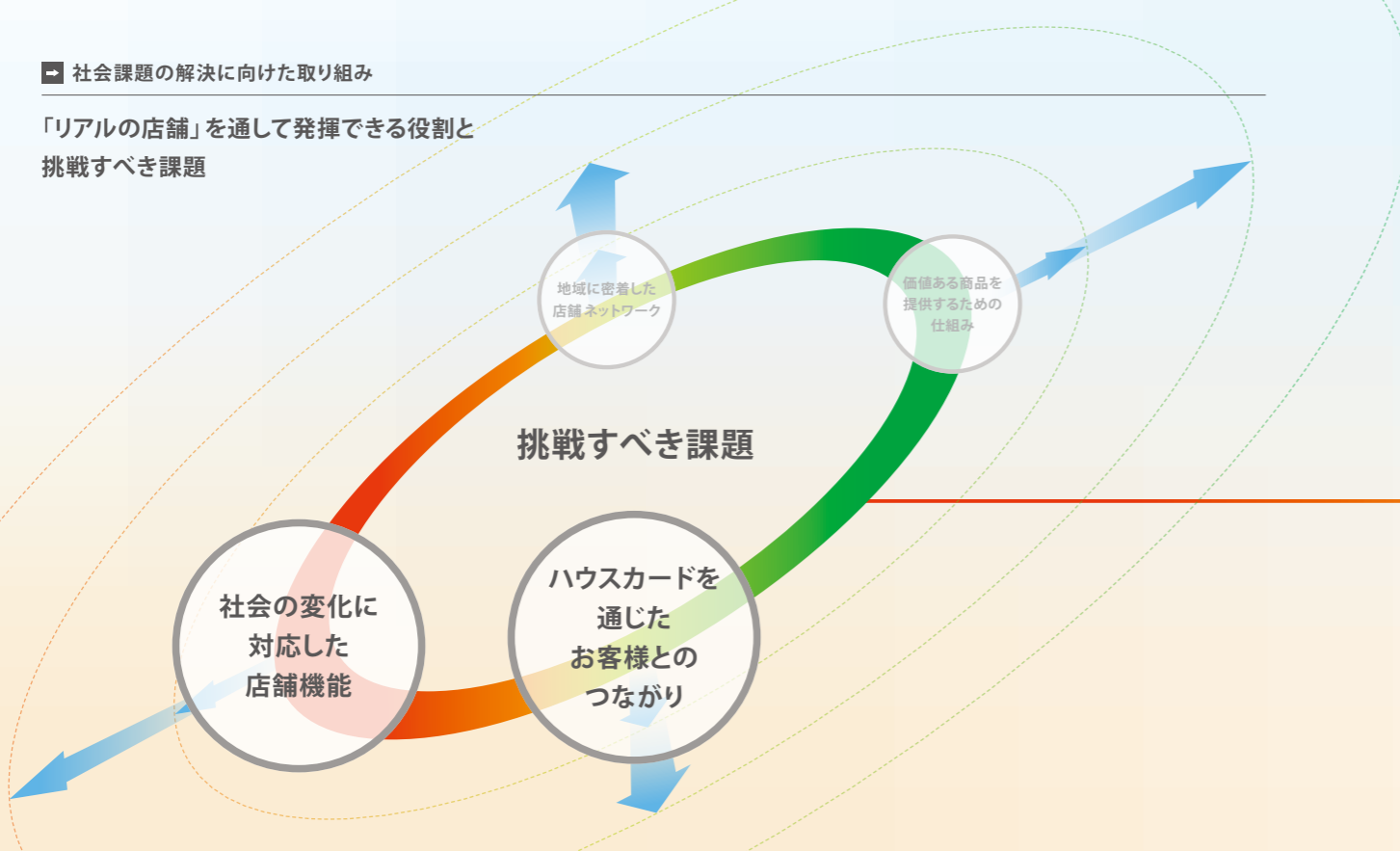
店舗内に設置したイートインスペースは、地域のつながりを深める拠点としても活用されています。購入した商品を飲食するだけでなく、オフィス立地では仕事の合間の憩いの場として、住宅街やロードサイドなどはお家族や友人との会話を楽しむコミュニティスペースとして、また地元のNPOやサークル等のイベント場所としてもご利用いただ

ています。イートインスペースの設置店舗は約7,000店舗にまで拡大しています。



地域の集いの場として活用されるイートインスペース

「リアル店舗」を通して発揮できる役割と
挑戦すべき課題



「新たな成長への攻めの強化」を支える人と組織づくり

ユニー・ファミリーマートグループでは、経営統合によって得られた店舗網と製造・物流ネットワーク、お客様や地域社会とのつながりを活かしながら、「新たな成長への攻めの強化」に挑戦しています。多様な人材が働きやすい職場環境づくりなど、「攻め」の成果を最大化するための組織づくりも進めています。



人財に対する考え方と主要な取り組み

ユニー(株)では、従業員一人ひとりが自ら学び、考え、動く「考動」する人材となることを目指しています。総合小売事業に従事するビジネスへのスキルアップのみならず、広く社会に貢献できる人間力を育成することが人財に対する考え方です。

この方針に基づいて、キャリアに応じて必要な教育研修を実施しているほか、自己啓発を勧め、従業員の成長をサポートしています。また、高齢者や障がいのある方にも安心してご来店いただけるよう、店舗の店長・副店長などの管理職を中心に「サービス介助士」の資格取得を推奨しています。さらに、パートタイマーには技能研修を実施し、資格取得者には技能給を支給しています。

また、男女ともに管理職として活躍できる労働環境の整備に向け、2016年4月から3ヵ年計画で女性活躍推進法行動計画を定め、女性管理職の割合を、2020年を目処に10%以上にする目標を立て、女性の活躍を支援しています。



サービス介助研修の様子

女性活躍推進法行動計画(ユニー)

計画期間	2016年4月1日～2019年3月31日
目標	<ul style="list-style-type: none"> 管理職(課長以上)に占める女性割合10%以上
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 育児や介護を理由とする退職者に対する再雇用の実施 育児休業・介護休業期間の拡充 非正社員人事制度の見直し



人財に対する考え方と主要な取り組み

(株)ファミリーマートは、成長を支える人財戦略として、「人財の採用」「人財の育成」「適正配置・定期的なローテーション」「処遇」の4つに取り組んでいます。中でも「人財の育成」については、2011年度から教育専門部署を立ち上げ、「ファミリーマート・ビジネスカレッジ」と銘打って、全階層のビジネススキル・グローバル育成・ダイバーシティ領域や、選抜型・公募型の研修など自らのキャリアアップに活用できるよう様々な教育プログラムを設けています。

2017年度には社長直轄の2組織が新設されました。「人財開発室」では、社員がより良い形でスキルアップやキャリアアップを図ることができるよう、全社における人財育成体系の一元化を進めています。特に、加盟店と本部をつなぐスーパーバイザー(SV)の育成を主要な課題と認識しており

SVの業務に必要なスキルを、体系的かつ効率的に学ぶことができるよう業務プロセスを整理し、育成プランを具体化しています。また「ダイバーシティ推進室」では、女性の活躍推進に向けた取り組みを中心に、多様な人材がその能力を最大限に活かし、活躍できる職場環境づくりを推進しています。



女性社員によるワークショップ

女性活躍推進法行動計画(ファミリーマート)

計画期間	2016年4月1日～2021年2月28日
目標	<ul style="list-style-type: none"> 女性社員比率: 20% 女性管理職比率: 10%
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 働きやすく働き続けることができる社内環境整備 女性社員の積極採用 管理職登用にに向けた育成と意識醸成